

## 林内ホダ場でホダ木から検出された放射性物質 (5)

— 環境改善を実施した林内ホダ場へ平成26年6月に伏せ込んでから4か月後の結果 —

### 1 はじめに

林内ホダ場における放射性物質の影響(以下、「影響」と称する)を明らかにするため、A<sub>0</sub>層除去(以下、「環境改善」)後のホダ場に放射性物質濃度(以下、「濃度」)の低いホダ木(以下、「代替ホダ木」)を伏せ込み、濃度の変化を調べています(林業技術情報No54、57)。今回は、これまで報告してきたホダ場とは別に、新たに環境改善を行ったホダ場へ平成26年6月に伏せ込み、約4か月後に調査した結果を報告します。

### 2 調査方法と結果

【方法】平成26年6月に、一関市内の3か所の環境改善済みホダ場を試験地として、各2種類の試験区(A<sub>0</sub>層除去区と非除去区)を設けました(写真)。ホダ場の上層木はいずれもスギです。3か所のうち2か所(下図①と②)の除去区では、A<sub>0</sub>層除去後の土の跳ね返りを防ぐため、麻布が敷かれました。各試験区に代替ホダ木をヨロイ伏せに伏せ込みました。平成26年10月(約4か月後)に、1区当たり、立て木(地面に接したホダ木:林業技術情報No54)6~7本、横木2本を回収して、濃度(含水率12%換算)を測定しました。このうち立て木は上、中、下部に分けました。なお、代替ホダ木にも伏せ込み前から少量の放射性物質が付着していたため、測定値からその分を差し引いた値を、試験地で付着した放射性物質の濃度としました。また、測定値が測定下限値未満であった場合には、下限値を測定値とみなしました。

【結果】いずれの試験地、試験区でも、濃度は試料の約半数で測定下限値未満であり、濃度の目立った増加

は認められませんでした。試験区3か所の平均濃度は、除去区で0.5Bq/kg、非除去区で2.2Bq/kgでした(下図右)。このうち除去区では下部で、非除去区では上部と横木で、それぞれ濃度がやや高い傾向が認められましたが、その差は1Bq/kg程度と僅かでした。

平成24年に一関市内のスギ林で行った同様の調査では(林業技術情報No54)、伏せ込みから4か月後には、ホダ木の濃度が除去区でも10Bq/kg以上、増えています。単純に比較はできませんが、ホダ場内の放射性物質がホダ木の濃度に及ぼす影響は、放射性物質の崩壊(半減期)やA<sub>0</sub>層から下方への移動などにより(同No59)、それぞれ低下している可能性があります。



写真 A<sub>0</sub>層除去処理

### 3 成果の活用

今回は伏せ込み直後の結果であり、濃度は今後変化する可能性があります。引き続き、代替ホダ木や子実体の放射性物質濃度を調査していく予定です。

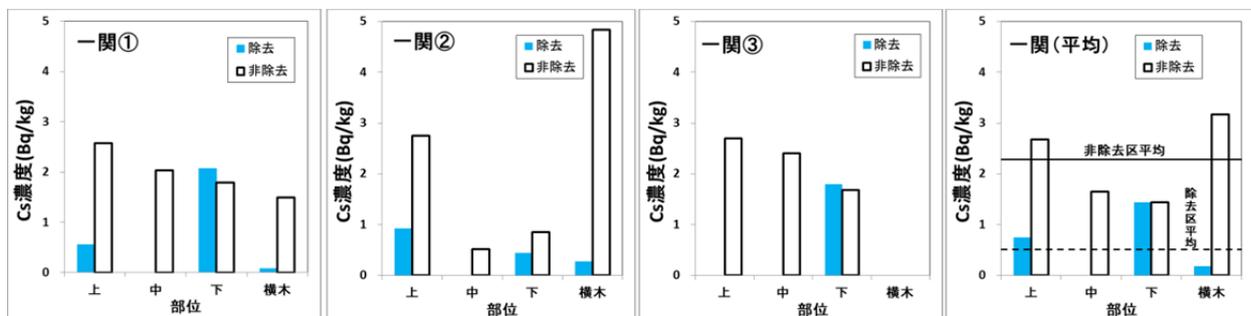


図 代替ホダ木の放射性物質濃度

(担当 研究部 主査専門研究員 成松 眞樹)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
 岩手県林業技術センター  
 ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536

F A X 019-697-1410